

調査研究報告書の発行にあたって

協会けんぽは平成20年10月に設立され、今年で設立から10年目を迎えます。

協会けんぽは、国民の3.3人に一人、約3,900万人の加入者と、約210万の事業所からなる日本最大の医療保険者であり、主に中小企業で働くサラリーマンとそのご家族の皆さまに良質かつ効率的な医療を保障し、我が国の国民皆保険の一翼を担っています。

私たちの役割は、地域の実情を踏まえた自主自律の運営を行い、都道府県単位で保険者機能を発揮することによって、加入者・事業主の皆さまの利益の実現を図ることです。

近年、医療保険者には、現金給付やレセプトの審査といった従来の業務に加え、特定健診の実施やコラボヘルスの推進などによる加入者の方々の健康度の向上、また、地域の医療提供体制への働きかけを通じた医療等の質や効率性の向上など、加入者のための保険者機能の発揮が強く求められています。

平成29年5月には、「保険者機能のさらなる発揮に向けて ～データヘルス計画の推進と情報発信～」をテーマに、第4回協会けんぽ調査研究フォーラムを開催し、内外に広く意見発信を行いました。それに加え、本部と支部が健診やレセプトのデータを分析し、その成果を多くの学会等で発表したほか、そこで得られたエビデンスを新たな事業に活用する取組みを行ってまいりました。

このような平成29年度の幅広い調査研究の成果を取りまとめ、広く情報発信を行うとともに、今後の協会けんぽの調査研究のさらなる発展を目的に、今般、「調査研究報告書」を発行いたします。

また、平成30年度には、医療計画や医療費適正化計画、介護保険事業計画の見直し、診療報酬・介護報酬の同時改定、国民健康保険の都道府県化など、医療・介護に関する計画や新たな制度が一斉にスタートします。協会けんぽにおいても、新たに、第4期保険者機能強化アクションプランや第2期データヘルス計画をスタートさせる年度となり、インセンティブ制度も本格導入します。

協会けんぽは、保険者機能のより一層の強化・発揮に向けて各種事業に取り組み、加入者と事業主の皆さまの利益の実現に努めてまいります。今後とも、ご指導、ご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成30年1月

全国健康保険協会
理事長 安藤 伸樹